

半田選手 国体馬術 標準障害飛越7位!



▲国体会場で競技中の半田選手

半田侑里選手（高知市在住・土佐山田町北組西出身）が、10月3日から7日まで、東京都あきる野市特設馬術競技場で開催された第68回国民体育大会馬術競技の標準障害飛越で7位に入賞されました。

昨年のぎふ清流国体では、ダービー種目で6位の半田選手。入賞の結果をお聞きすると「これまでも入賞してきた馬に乗るので、プレッシャーがありました。高知県の少年の部の馬をお借りしているの、最低ゴールは切って、少年の部の入賞につながりたいと思っていました」と話しました。

馬術競技が盛んな地域の選手は、乗りなれた馬で出場しますが、半田選手が乗った馬は、高知県の少年の部代表が乗る馬で、国体前に練習で2回乗っただけでした。

半田選手と馬との出会いは、小学6年生のときに、親から「馬に乗れるとかがあるよ」と聞いたのがきっかけで、中学校から南国市の乗馬クラブで、週2、3回指導を受けるようになり、高校生になると、ほぼ毎日馬に乗るようになりました。大学生生活を北海道



はんだ・ゆり
高知市在住。鏡野中卒業。29歳。

で送った半田選手は「大学で同僚と試合への出場権を競い合ったことが刺激になった」と話しました。高知市の乗馬クラブで指導員を勤められる半田選手。今後も活躍が期待されます。

香美市文芸 風の流

◆一般投稿作品◆

広報委員会 選

蟹汁の匂虎杖の花咲けば
柚子の香の厨に満ちて夕仕度
過去形で哭くや今宵の虎落笛
温泉の宿に薪ストーブや遅もみぢ
秋日差す谷川に佇つ鷺一羽
雨止んで大地の匂ふ虫の夜
銀杏散る夜空大きな静けさに
台風一過たわわ柿無事円らなり
鳥小屋の前に一人生え柿実り
秋近しキツネノカミソリさきかけて
さざんかや散り重なりて老い一人
打ち上がる花火の空に上弦の月
酔う程の金木犀の香りかな
何気ない母の一言偲ぶ秋

福留ともり 山崎 貴子 森本 幸美 岡田美代子 北村千鶴子 千頭 野草 森本 純喜 高野 和一 小野寺朱実 都築 忠義 公文多賀子 楮佐古きよ 山崎 寿美 三谷 誠郎 公文 春紀 高橋 章 北村 幸子 西川 常夫 甲藤 卓雄 野崎 典子 北村 里子

けたたまし電線に乗りも古鳥鳴けり
一斉に雀飛び立つ刈田かな
この世にはまだまだ未練酔芙蓉

小野川順子 中内ゆかり 竹内 ろ草

◆かがみ野俳句会◆

夕映えの空を従へ渡り鳥
虫の声聞きつつ朝を婆二度寝
鷹渡る伊良湖への旅まなうらに
豊穣を盛りて乾盃今日の月
豊作といふ松茸を見て通る
出来秋の信濃越後路乗り継ぎて
栗爆せて胸透き通るわたかまり
コンサート終へし余韻や鳥渡る

佐竹 洋子 佐藤 幸 利根 弘子 古川 信子 小松 愛子 中澤 美晴 山崎 鈴子 吉田 芳

◆かほく俳句会◆

コスモスに子が乗り入れし三輪車
俳諧の隅に余生や秋の暮
舞台に亡母の篋あと一葉忌
「PPP反対」と背に案山子立つ
短日の小屋に転がる柄抜け鉞
秋茄子を食はず嫁なき時世かな
ふる里の新米どかと玄関に
北斎の富士の絵柄の秋扇
小鳥来るやなせたかしの逝きし宙
薬焼きの煙たちたる日暮れかな
今はただ元気が願ひ十三夜
はにかみて朴散るやなせたかしの訃
弾けたる綿の実雨に垂れてをり
脳の中混ぜられてをり秋深む
雨戸繰る手を止め聞きし虫の声
百姓は哲学を持ち稲を刈る

乾 真紀子 奥宮さとみ 黒岩千英子 小松 隆之 小松 昇 杉山 春萌 野村 里史 前田 欣一 前田 智 間崎 和代 森本 之子 山崎かずみ 山中 晶子 山中 明石 山中 瑞輝

香美市民憲章

—平成24年4月1日制定—

前文 私たちの香美市は、美しく、豊かな自然に育まれています。先人が築き上げた尊い文化や伝統を受け継ぎ、人々が愛と勇気を心に持ち、誰もが幸せを感じられるまちを目指し、ここに市民憲章を定めます。

本文

- 1、豊かな自然を守り、美しいふるさとを未来に届けましょう。
- 1、互いに思いやり、ささえあう、心安らぐまちにしましょう。
- 1、歴史に学び、伝統を守り、高め、文化の香りあふれるまちにしましょう。
- 1、子どもたちの笑い声は宝物、みんなで見守り育てましょう。
- 1、感謝の気持ちを大切に、元気で働き、仲よく住みよいまちにしましょう。

◆土佐山田町俳句会◆

ときじくのかくのこのみや祝ぎの席
秋草の花器に溢れて派手ならず
爐もみじ社は岩に組み込まれ
野路菊の生けられており履物屋
街路樹も侘びの色なり日の短か
休むこと知らぬ老いて諸太る
鶏頭や何に恋して燃えてるの
土佐蔵や鯨や鶴亀秋の声
木犀の香にさそわれて小道人る
法師蝸ほどの小吏で終りけり
廃屋の道を塞ぎて萩すすき

明石 蕪生 大石 邦男 前田美智子 森田 菊恵 前田 小夜 橋本 昭和 森田 貞男 川谷 泰山 笹岡 英世 榎谷 雅道 田村 一翠

◆今月のキラリ◆

さざんかや散り重なりて老い一人
色鮮やかに咲き誇るさざんか。人生に例えるなら青春。散り重なりては、積み重ねてきた歲月か。健やかに老いを迎えた懐古の句。

◆俳句・短歌の投稿方法◆

▼投稿方法は自由。(ただし、ハガキで投稿の場合、一人一枚のハガキで5句(首)以内)
▼かい書で、住所・氏名・電話番号を必ず明記してください。
▼俳句は偶数月、短歌は奇数月に掲載します。掲載月の前月の1日までに投稿してください。
▼誌面の都合により掲載されない場合があります。なお、選者の添削を不要とする方は添削不要と記してください。

〒782-18501 (住所記載不要) FAX 53・5958